

ゴマフアザラシ

Phoca largha

アザラシ科

名前の由来

身体に豹（ヒョウ）の様な模様があることから海豹や水豹とされた。その模様を痣（あざ）とみたてたことから、アザラシとなったという説がある。ゴマフアザラシは白っぽい身体にゴマを散らした様な斑があるアザラシであることから。漢字名：胡麻斑海豹



ゴマフアザラシ



ゴマフアザラシ

形態的特徴

頭胴長(鼻先から尻尾の付け根まで)：オス170cm、メス160cm、体重：82~116kg。灰色の地に小さな黒斑が多数あって、腹面は淡い色である。幼体は純白。

類似種：ゼニガタアザラシ。

ゼニガタアザラシの明色型と見分けが難しいが、北海道のゼニガタアザラシはほぼ暗色型なので区別できる。

生息環境・分布

沿岸、河口。

分布：国外では、オホーツク海、ベーリング海に分布。国内では、北海道周辺（及び日本海？）に分布。北海道では、

東部沿岸域に分布。

十勝地方では、冬期に十勝川河口で見られる。

食性・他生物との関わり

主に魚介類を食べる。基本的には魚などを食べる捕食者であるが、海洋ではシャチなどに食べられることもある。

繁殖生態・寿命

2~4月（多くは3月中~下旬）流氷帯の辺縁部で出産し、一度に1子を産む。寿命は最大35年。

興味深い話

■ゼニガタアザラシと近縁な種で、最近まではゼニガタアザラシと同種に扱われていた。

■冬期に南下してきて、十勝では冬期に十勝川河口の結氷した氷の上などで見る事がある。

■出産は流氷の上などで行う。アザラシの子の多くは生まれた時には白い毛をしているが、これは氷の上での保護色となっている。

■出産後は、母子に1頭のオスが伴う「家族」が氷上に

200m以上の間隔を開けて散在する。ただしこれは出産直前からメスをほかのオスから見張って離乳前後の交尾機会を待っているのだという。

■離乳後交尾期が終わると多くは流氷とともに北上するが一部は野付半島や風蓮湖付近の沿岸などに残る。また当歳子は南に分散するものもいるようである。

■アイヌ語では全道的にアザラシを「トゥカル」と呼ぶ。北海道の漁師などの間でも「トゥカリ」と呼ばれる。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期	■											
交尾期				■ 翌年出産								
出産期		■		■								

参考文献

「日本の哺乳類」阿部永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明 東海大学出版会 1994
「日本動物大百科2 哺乳類II」日高敏隆 監修 平凡社 1996
「北海道 森と海の動物たち」エコ・ネットワーク編 北海道新

聞社 1997

「知床のほ乳類I」斜里町立知床博物館編 北海道新聞社 2000

「知里真志保著作集 別巻I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ
ウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(葎原・樹林)
ワシ・タカ